

# バルト海洋環境保護委員会(ヘルシンキ委員会; HELCOM)による海洋汚染防止への貢献

## I. 序論

30年以上にわたり、ヘルシンキ委員会(HELCOM)は、その固有の海洋環境を保護し保存するための明確な施策を作成することにより、バルト海地域について主立った政策立案者の役目を務めて来た。同委員会は、全沿岸国間における政府間協力を通じて作業を行い、過去30年にわたり数多くの環境上の進歩をもたらした。これらの進歩は、世界で最も汚染された海の一つの荒廃の進行を止め、また海洋環境の状態を改善することは可能であるという考えが正しいことを証明した。

HELCOMによる作業と業績は、冷戦時代から第一次及び第二次EU拡大までの、それぞれがバルト海地域の地政学的な状況の強い影響を受けた三つの期間に分類できる。

## II. 初期

バルト海の健全性の明らかな悪化により、1960年代末期以来、不安が高まり続けていた。バルト海は健全な状態にないこと、この海は自力で存続できないこと、そしてその海洋環境を保護するには国ごとの施策のみでは不十分であることに関する意識の向上によって、当時の沿岸7か国が「バルト海海洋環境保護条約」(ヘルシンキ条約)を採択し、1974年に調印する運びとなった。

政治的および経済的な差違があるにもかかわらず、全バルト海沿岸諸国が、自分たちが共有する海を保護するため、かつてない共同の努力に合意したことは歴史的な転機となった。同条約はまた、海洋環境の保護へのその包括的な取り組みの点で独特なものであった。条約は、それが陸上、海上、または大気中のいずれに根差したものであれ、すべての海洋汚染源に対処するものとなっており、また、海上事故への対応を改善するための連携の確立に取り組んだ。

同条約が持つこうした包括性は、地理的および環境上の要因によって区切られたその限定的な対象分野とあいまって、複雑な環境問題の解決により注力することを可能にした。互いが近接していること、およびこの半ば陸封された海にそれらが共通して依存していることの両方から、バルト海周辺諸国はおのずとまとまった。

国際的に制定された同条約は、各締約国に義務を負わせる法的拘束力を有してはいるが、同条約は、主として、締約国間における緊密で永続的な協力に法的根拠を与えた。同条約の管理機関であるヘルシンキ委員会は、この作業を完遂するであろう。

同条約の制定は、一つの政治的業績であり、同委員会によるその後の各環境改善事項の基盤を提供した。以下はこれらの業績の一部である。

- 陸上活動に由来する汚濁負荷量に関するデータの収集の際、およびバルト海の海洋環境のモニタリングの際にすべての諸国が利用する、統一された方法により得られたバルト海の状態およびこれに影響を及ぼす要因に関する科学的知識の増大と深化。これは、HELCOMの作業の根幹をなし、さらなる措置の必要性の評価を可能にし、従って意思決定者のための裏付け情報となっている。
- それにより HELCOM が、海洋生態系に有害であると認められた特定物質の使用の制限または排除の勧告を行った「物質面における」研究方法の応用。
- 船舶からの海洋汚染防止および海難事故の際における協力への注力。前者は、船舶輸送が持つ性質から、バルト海沿岸諸国による適切な国際的必要条件の採用とそれらの有効かつ統一的な施行が必要であるが、他方において、後者は、より地域的な問題である。海難事故への迅速な対応を確保するためには、地域協力の促進のみならず、地域的対応と緊急時対応能力の適切性を評価することが重要である。

## III. 「条約地域」の拡張

HELCOMの歴史の第2の時代は、1992年に始まった。欧州における政治的変革と、国際的環境および海洋法の整備が、全バルト海沿岸諸国と欧州委員会による改正条約の調印をもたらした。

基本的な新しい原則および取り組みは、この第2の時代に特有のものである。

- 海そのものばかりでなく、内水面をも保護対象として含むいわゆる「条約地域」の拡張。
- バルト海沿岸諸国がそこにおける同条約の規定および関連する勧告の施行を確約している地域(「適用地域」)の拡大。この地域は、海域に加えて、バルト海の集水域を含めるために拡大された。
- 財源動員の必要性および HELCOM と各国際金融機関の間の協力と調整の必要性の認識。この作業は拡張され、バルト海沿岸諸国だけでなくバルト海集水域にあるベラルーシ、ウクライナ、チェコおよびスロバキア各共和国などの国々を含むものとなった。大部分のバルト海の汚染の原因となる「汚染ホットスポット」を確認するために各国際金融機関が開始した予備フィージビリティ・スタディを用いた新たな取り組みが行われ、この確認によって資金を誘致できるプロジェクトの設計がもたらされることを確実なものとした。
- バルト海地域の自然資源の持続可能な利用のみならず、自然保護と生物多様性の問題を対象に含めるための HELCOM の作業の拡張。
- 陸上の汚染源に対応するための、点と拡散した源からセクターの面における取り組みへの変更、あわせて、限界値の設定ではなく、利用可能な最善の技術と最適な環境実践行動の奨励への変更。陸上の汚染源に関する HELCOM の作業においては、EU および北東大西洋における HELCOM の姉妹組織である OSPAR が講じている措置との統一が重視されている。

#### IV. 心強い成果

バルト海地域における共同努力の結果、心強い成果が得られ、バルト海の悪化速度は低下し、その環境状態はやや改善した。HELCOM の取り組みの直接的な結果として、この数十年間、バルト海の海洋環境状態に多くの明確な改善が認められている。1980 年代初頭以来、ヘルシンキ委員会は、主として約 200 件の HELCOM の勧告により、バルト海の海洋環境改善のために努力して来た。40 件を超える HELCOM の勧告は、工場や地方自治体の廃水処理プラントなど点状源、または運輸や農耕地などの拡散源のいずれかからの、陸上起源の汚染を制限する手段に関連したものである。これらの勧告を実施することにより、沿岸諸国は点状源からの有機汚染物質および栄養の排出量を大幅に削減した。さらに、廃水処理、公害防止、廃棄物管理、海上安全、生物多様性保護、および有毒物質禁止に関連する多数のプロジェクトが実施された。

バルト海における栄養汚染は、HELCOM に関する各環境閣僚が栄養流入量の 50%削減目標を定めた 1980 年代後期以降、深刻な問題かつ重要な政治的課題となり続けた。栄養負荷削減に関する 1988 年の HELCOM 閣僚宣言の戦略的目標の進捗度評価のために行われた最近の調査の結果、地方自治体や工場の廃水処理プラントなど点状源からの負荷の削減において多くの成果が挙げたことが明らかになった。沿岸国のほとんどすべては、点状源からの負荷の 50%削減を達成しおおせた。しかし、調査結果は同時に、農業に由来する栄養の削減のために講じられた措置が、50%削減目標に及ばなかったことを示している。負荷削減措置のさらなる実施は、農業起源の栄養負荷の削減を支えるであろう。しかしながら、農業用水保護措置の実施と水域におけるその影響との間には相当な時間差があることが明らかになっている。

1990 年代初期以降、全体として 20-25%の酸素消費物質(BOD)の排出量削減が達成された。有毒なダイオキシンやフランなどの有機ハロゲン化合物の排出量削減における大きな進捗が報告されている。大気中の窒素蓄積および PCB、DDT、水銀および鉛などの汚染物質の流入量の著しい削減もまた、厳格な HELCOM 規則により達成された。例えば、1996 年-2000 年の期間には、沿岸諸国における大気中への重金属の年間排出量は、カドミウムが 26%、水銀が 15%、および鉛が 10%それぞれ低下した。バルト海の魚類におけるその濃度はなおも EU の食品安全許容値を超えているが、ダイオキシンについても同様である。HELCOM の勧告は、産業排出量の強制的許可など産業界に対するより厳格な規制をもたらした。

1992 年以来、バルト海地域にある 162 件の主要な汚染「ホットスポット」のうち 81 件が成功裏に除去された。このことは、バルト海集水域における汚染負荷全体の削減に大きく貢献した。絶滅の恐れのある動植物ばかりでなく傷つきやすい生態系の保護と回復に役立つバルト海の各保護区も HELCOM の勧告に基づいて設置されたものである。HELCOM は、バルト海への違法な排出を排除するための措置

を含む、船舶からの汚染を防止し、航行の安全を確保するための特別法を制定した。ヘルシンキ委員会はまた、海洋環境共同モニタリングを確立し、追加的保護措置の必要性を図るための前提条件としてその品質状態の定期評価を実施した。

これらすべての成果は、海水浴が禁止された海岸数の減少、違法な油の排出件数の減少、アザラシとオジロワシの回復、野生のサケの生息数の回復などの結果をもたらした。過去数年のめざましい進歩にもかかわらず、バルト海全体としての状態は、不十分なままである。我々の前途には、バルト海の海洋環境の回復と保護のための取り組みにおける多くの課題が残されている。

## V. 新時代の開始

HELCOM は、エストニア、ラトビア、リトアニア、およびポーランドがバルト海 EU 加盟国クラブに加わった 2004 年に、完全に新しい時代に入った。ヘルシンキ条約締約国中、ロシアのみが非 EU 加盟国のままである。現在の激しく変動する政治環境において、バルト海とその集水域の大部分は、今や EU の諸規則の対象となっている。こうした規則には、欧州水質フレームワーク指令(European Water Framework Directive)、および、現在作成中の欧州海洋戦略(European Marine Strategy)が含まれる。HELCOM の 9 締約国中 8 か国は、意思決定権のいくつかをブリュッセルの EU 本部に委任しておりながら、現在、EU への寄与と EU 規則の施行を行わなければならないという事実により、仕事量の増加を経験している。この結果として、同地域における HELCOM の役割は今ではより明確なものとなっている。

この新しい役割において、HELCOM は、海洋環境保護のための 4 件の具体的な任務を着手する。

- まず、バルト海地域における環境問題を見極め、これらを健全なバルト海のために認定された目標につなげるための能力の向上。これらは、追加措置の必要性を評価するための基盤として機能し、また、国内レベルだけでなく、EU や HELCOM など国際的な討論の場における意思決定者のための裏付け情報を提供することになる。
- 次に、バルト海地域においてさらなる環境保護を図るための共同の HELCOM 活動を通じたロシアとの不可欠なつながりの強化、およびバルト海地域の EU 加盟国とロシアの間の協力の促進。
- 第 3 に、HELCOM と集水域にある非 HELCOM 諸国、すなわちチェコ共和国だけでなくウクライナやベラルーシ（同じく非 EU 加盟国）との間の協力強化における HELCOM の重要な役割の維持。
- 最後に、類似の問題への類似の決定を目指した他の各海洋委員会との協力強化。この例としては、HELCOM と OSPAR 間における海洋保護区に関する共同研究計画、および HELCOM、EU および黒海委員会の間の富栄養化問題への取り組みのための協力がある。

## VI. 重要な環境問題の見極めと取り組み

第 1 の任務である環境問題の見極めおよび健全なバルト海をもたらすために必要な今後の行動について、HELCOM は、25 年以上にわたり環境データを収集し配布して来た。これは、バルト海に到達する汚染負荷の評価とバルト海の海洋環境状態の評価により完遂された。この過程において欠如していたものは、バルト海の状態に関する境界設定の全体目標の認定であった。我々はまた、特定の間活動とバルト海の健全性へのその影響の間の相互関係に関する我々の理解を向上させ、またこれを評価結果のうちさらなる措置を要するものと結びつけることを必要としている。

この作業は現在展開中である。HELCOM は、富栄養化の抑制、危険物質の削減、海上安全の向上、および自然、また生物多様性の保全に関する、その確認された環境優先順位に沿って進展している。各指標は現在設定中であり、これらの目標の達成度を我々が測定することを可能にするであろう。

## VII. 栄養負荷の削減

栄養物によるバルト海の過剰富化である富栄養化は、バルト海の生態系に悪影響を与え、バルト海を我々が利用し、また楽しむことに影響を及ぼす。富栄養化の直接また間接的な影響の事例には、集中的なプランクトンの異常発生、水の透明度の低下、および沿岸の永続的な植生の、最大成長深度が低下した一年生植物による交替、その後魚類や他の動物への影響、そして最悪の場合、海底における酸素欠乏が続くことが含まれる。従って、HELCOM の作業の重要な側面は、人間により引き起こされた富栄

養化を望ましい水準まで低下させることである。これは当然ながら「何が望ましい水準なのか」という問題を提起する。

このような水準を定義するため、EU の水質フレームワーク指令に基づいて沿岸水域について実施されている類似の作業との緊密な調整と協力の必要性を考慮しつつ、我々は現在、バルト海の外洋地区に関する準地域的背景値を決定しつつある。時間を巻き戻すことは不可能であり、我々は 1800 年代のバルト海を取り戻すことは決してないであろう。しかし、良好な環境状態を目指す場合、自然の過程から生じる背景値を参考として利用することができる。これらの背景値の利用は、良好な環境状態にある海、バランスよく機能する多様な生物学的構成要素を備えた海、そして広範で持続可能な経済的また社会的活動を支える海、このような我々の海の最低の望ましい状態を定める目標水準の決定に役立つ。

我々の海に関する望ましい状態を決定した後、問題の背後にある力に取り組むべきであり、また、富栄養化の場合、海洋生態系による許容可能な栄養流入量水準が定義されるべきである。栄養負荷は、離れた場所の陸上の排出源や北海地域における船舶輸送など、集水域の外部の活動に由来する相当量の空气中浮遊窒素の流入量を含む、陸上で行われる活動に結びつけられなければならない。そうすれば HELCOM は、集水域流入量モデルと空气中浮遊窒素堆積モデルを環境影響モデルにリンクさせ、従って流入量のさまざまな低下が海の状態に及ぼす影響を予測し予報することにより行動のための優先順位を評価できる。

農業が、バルト海に水によって運ばれる栄養の最も重大な寄与者の一つ（窒素総量の約 60%、および磷流入総量の 50%）であるという知識を持って、HELCOM は富栄養化に関する主題評価報告を作成する。本評価の目的は、バルト海沿岸 9 か国の代替的農業政策を含む多様な政策シナリオの結果を見極め、この情報を、例えば、2009 年における EU の共通農業政策の中期修正に共同提供することである。

## VIII. 有害物質に関する行動

有害物質によるバルト海の海洋環境の漸進的汚染は、海洋生態系に深刻な脅威をもたらした。有害物質は、海洋生物に毒性を持つ水準まで海洋食物網に蓄積する可能性がある。捕食動物は、内分泌および免疫系の損傷により特に影響を受け、人間の健康でさえも危険にさらされている。

HELCOM のモニタリング活動により、いくつかの有害物質の負荷が過去 20-30 年間にわたって大きく減少したことが示された。最近の汚染負荷収集では、1994 年-2000 年の期間に重金属の河川負荷はほとんどすべての沿岸国において低下したことが明らかにされている。しかし、今でもバルト海における重金属濃度は、北大西洋におけるものよりも何倍も高く、1990 年代以来低下していない。最高の知らせは、大半の地域においてニシンの鉛濃度の明らかな低下が認められたことであり、これは恐らく鉛添加燃料の使用量が大幅に減少したことによるものであろう。

過去 50 年間、産業、農地、および廃棄沈降物から、残留性有機汚染物質(POP)などの有害物質が大量にバルト海に放出された。過去何十年間かの中に堆積物中に蓄積した空气中浮遊放出物および有害物質は、なおもバルト海に放出され続けているが、水中への直接排出は大きく減少した。

HELCOM の主要優先事項の一つは、未来の各世代に健全なバルト海を引き継ぐことができるよう、すべての有害物質の放出、排出および紛失を 2020 年までに段階的に減らすことである。目標は、人間が作り出した有害物質の濃度をゼロにまで低下させ、また自然に生じる物質の濃度をその自然背景濃度にまで引き下げることである。

1999 年から 2002 年まで、HELCOM の有害物質プロジェクトにより、暴露状況を評価し、それらの使用を排除するために適切な費用効率の高い方法を確認する目的で、出所、経路、市場、および選択された有害物質に関連する法的状況に関し利用可能なデータが収集された。プロジェクトチームは、水銀、カドミウム、短鎖塩素化パラフィン、ノニルフェノールおよびノニルフェノールエトキシレート、ダイオキシン、ならびに PCB を対象とする特別文書を作成した。これらの手引き書は、有害物質の放出、排出および紛失を排除するため最も効率のよい手段と方法の政策立案者による選択を支援するように作られていた。

## IX. 船舶輸送の安全および対応能力の確保

HELCOM のもう一つの優先事項は、石油の運搬に特別な注意を払い、対応能力を構築して、船舶輸送の安全を確実にすることである。バルト海は、船舶の交通量が稠密な地域であり、常時、海域には世界の積荷輸送の 15%に相当する約 2000 隻の船舶が存在している。地域の特に東部における経済成長により、バルト海を船舶輸送される貨物の量は、2015 年までに年間 5 億トンから 10 億トンへと倍増すると予測されている。特に、石油輸送は、ロシアの石油ターミナルの建設と拡張により、中でもフィンランド湾における増大が見込まれている。予測によれば、バルト海で輸送される石油の量は 2010 年までに年間 1 億 9,000 万トンに増加するとされている。石油輸送のこのような増加は、バルト海全域について 1 万トンを超える石油流出の危険性を 35%、またフィンランド湾においては 100%高めるものと推定されている。

毎年平均して 60 件を超える船舶事故が発生している。これらの事故の中で石油汚染をもたらすものは少数であるが、わずか 1 回の事故であっても海洋環境を荒廃させる可能性がある。このような脅威に対処するため、ヘルシンキ条約締約諸国は、多様な方法で協力し、HELCOM は航行の安全を確保するためのさまざまな手段を講じた。これらの手段には、関連する法律整備、演習、および事故の際だけでなく模擬演習の際における運営上の協力が含まれる。

2001 年、バルト海における 20 年間で最大の石油流出事故を受け、HELCOM は、航行の安全を大幅に改善させるための取り組みを行った。バルチック・キャリアーという船名の石油タンカーが、別の船舶と衝突し、2,700 トンの石油がデンマーク沿岸付近で流出し、広範囲にわたる海岸の汚染を引き起こした。HELCOM の臨時閣僚会議により、航行の安全を改善し、バルト海地域における緊急事態および対応措置に適切に取り組むための一連の幅広い措置が採択され、その結果、新たな事故の危険の完全な排除は不可能であると認められた。

HELCOM は、最近、バルト海における航行の安全をさらに向上する上で非常に重要なプロジェクトを完結した。2005 年 7 月 1 日、HELCOM は、バルト海における海上交通量を即時に監視するための、船舶自動識別装置(AIS)の稼働を公式に開始した。AIS は、超短波無線機に基づいたシステムであり、バルト海を航行する 300 総トンを超える各船の船名、位置、針路、速度、喫水、および貨物の確認を可能にし、すべての利用可能なデータをこの地域の共通背景地図上に表示する。このような HELCOM のシステムにより、海上交通量の定期的な監視だけでなく、船舶輸送の性質と範囲、およびバルト海で輸送中の貨物量に関する統計作成も可能となる。従って、同システムは将来の危険評価および衝突を防止し航行の安全を改善するための追加措置の必要性の確認に基盤を提供する。AIS の採用に加え、HELCOM は、現在、他には国際的規則が存在していない分野である凍結状態で航行する船舶の運航安全性の要件に対処するためのいくつかの措置を最近採用した。

海洋汚染事故に対する迅速な国内および国際的対応を確実なものとするため、数種類の演習が定期的に HELCOM の旗の下で実施されている。最も有名なものは BALEX DELTA 演習で、1990 年以来、沿岸各国の重大事故および国際的対応演習の場合の警報手順および対応能力を試験するため毎年実施されている。現在、HELCOM 諸国は、30 隻を超える海洋航行対応船舶をバルト海周辺に配置している。それらは、必要装備、能力、および訓練された乗員を有し、また原則として、バルト海のどの場所にも 6-48 時間内に到着できる。

HELCOM 諸国は、汚染事故を発見するばかりでなく、違法な船舶からの石油排出を防止するためにも、二国間および多国間の査察活動を含む空中査察飛行を行っている。現在年間約 400 件の違法な石油排出がバルト海で行われていることが統計によって示されている。査察の増加にもかかわらず、船舶により生じた廃棄物の汚染を減少させるための包括的な一連の措置(船舶により生じた廃棄物の港湾受入施設および付随する問題に関するバルト海戦略として知られている)の実施を HELCOM が 1990 年末に開始して以来、観察件数は、大幅に減少した。

海運安全の向上および既存の対応協力の維持と改善のための既存の措置への注力以外に、近い将来、HELCOM は次の各事項を検討する：

- 危険が高い地域における水先案内の必要性と可能性。
- 避難場所の指定、および責任と補償に関連する法的事項を含む関連情報の交換。
- 事故の場合に可能な限り速やかに行動し、これにより海洋環境への可能な影響を減少させるための

緊急曳航、はしけ運搬、および消防能力を含む、適切な緊急時対応能力の確保。

## X. バルト海の生物多様性の保全の増進

海洋群集における種数の少なさと相対的に単純な食物連鎖にもかかわらず、バルト海はその生物多様性において特異であり独特である。バルト海はその単純さにより、特に傷つきやすく、また海洋の生物多様性の保全に通常必要とするものに比べ恐らくより多くの配慮と注意を必要とするものとなっている。

バルト海の生物多様性を保存し保全する必要性を認識し、バルト海に関する生物多様性の望ましい水準および状態を定める、共通の目標を設定する必要がある。これらの目標は、海洋群集の全般的な健全性および構造と同様に、種の分布と豊富さを定めるものでなければならない。バルト海とその周辺の生存可能な生態系だけでなく、自然の生物多様性においては減少していない在来種の個体群、回復し、保全されている自然の沿岸景観と海の景観により特徴付けられ、健全で持続可能なバルト海という我々の共通の目標を機能可能なものとするよう HELCOM は、現在、努力している。HELCOM の作業の成功度を評価するため、指標が開発されているところであり、これらにより我々は我々の共通目標達成の程度を測定できるであろう。これらの指標は、すべての人間活動、すなわち有害物質の流入、人間により引き起こされた富栄養化、および海運活動の影響を組み合わせた影響を統合する生態系アプローチを用いて開発されている。開発中の指標は、次の事項の検出および測定を目的としている：

- 我々は、アザラシにおける繁殖障害などの海洋生物の汚染に関連した健康問題を抱えているか。
- 例えばバルト海の脂肪の多い魚類のダイオキシン濃度が EU 規則で勧告されている人間による消費に関する最高水準より高いことを想起した場合、バルト海で捕獲されるすべての魚類は、人間による消費のために安全か。
- 我々は富栄養化と戦い、特に沿岸の魚種資源および底生群集に影響を与えるすべての要因である水の透明性回復、不自然な酸素欠乏の不在、および例外的な藻類の異常発生を不在という、我々の目標を達成しつつあるか。

1994 年、HELCOM は、生息地、動物、および植物を保護するために設けられる 62 か所のバルト海保護区(BSPA)の設置を開始した。HELCOM は、現在、これらの保護区の実施状況を評価し、またそれらが環境的に一貫性を持ったネットワークを構成しているかを判定している。このようなネットワークは、独特の地区と特別な特徴を保護し、バイオトープと種が人間の悪影響から回復することを可能にするものでなければならない。このネットワークは、さまざまな海洋および沿岸バイオトープに対する脅威の種類と程度に関する情報の収集、ならびに重要で絶滅の恐れのある種の分布の判定により設定中である。これまでの結果は、確認された BSPA における保全措置の実施継続、および提案されている 24 か所の沖合 BSPA をネットワークに含めるためのさらなる対策措置の差し迫った必要性が存在することを示している。

## XI. 前途

HELCOM は、ヘルシンキ条約の義務、従って目標の達成を確実なものとするため専念しているが、我々の活動に追加された特徴も存在している。将来の欧州海洋戦略では、バルト海を含む各生態域に関する行動計画が予測されている。HELCOM は、バルト海集水域内の各国間に既に確立されている協力関係により、このような計画を成功裏に達成する独特な立場にある。我々もまたバルト海の特殊な特徴が欧州の政策において十分に説明されることを確実なものとするための独特な立場にある。HELCOM はこれらの問題の作業を 30 年以上行ってきたが、HELCOM バルト海行動計画は、次の例のごとくいくつかの重要な点に関して異なったものとなるであろう：

- 国際機関および政府から業界および NGO、つまり個々の市民までのすべての利害関係者は、HELCOM のバルト海行動計画の策定において積極的な発言力を持つべきである。
- この場合、我々は生態学的目標を用いて、我々の共通の理想像である健全なバルト海の意味を明確にする。富栄養化との戦い、有害物質の流入量の抑制、および海運上の安全確保という我々の 3 件

の主要環境優先事項だけでなく、バルト海に関する生態学的目標について我々はこぞって合意する。これらの生態学的目標は、具体的な目標を有する指標により測定可能なものとなる。

- バルト海行動計画は、目標を明確にし、費用効率の高い方法により実施される。

我々は、我々の環境政策を、健全な環境を促進するものとしてだけでなく、発展と雇用の推進力とすることができるであろう。しかし、我々が行う選択は、我々の社会が行う選択でなければならない。我々が、年長者から若年者の各世代まで、また民間部門から公共部門までを代表する人々の、広範な利害関係者により共有される共通の将来の理想像を展開することは不可欠である。

過去 30 年間に見られたもののようなさらなる成功は、健全なバルト海の環境を達成するためにすべての沿岸諸国および関連する利害関係者がいかに協力するかにかかっている。全般的なバルト海の状態は、我々の結集された努力と統合された行動のみによってさらなる改善が可能である。HELOCM は、これらの結集された努力の有効性を確保する上で、極めて重要な役割を持っている。